

令和2年入込観光客総評

令和3年6月 箱根町企画観光部観光課

■ 総括

令和2年の入込観光客数は、世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威をふるう危機的状況となり、日本でも緊急事態宣言の発出などによる外出自粛等の影響を大きく受け、昭和47年から実施している本調査開始以来最低を記録する、12,000千人台という厳しい結果となった。

■ 入込観光客数

12,570千人（前年比66.3% 6,390千人の減）

〔内訳〕

- ・宿泊客：2,789千人（前年比64.9% 1,508千人の減）
- ・日帰り客：9,781千人（前年比66.7% 4,882千人の減）

■ 大きく影響を受けた事象

- ・新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大
- ・GoToトラベルキャンペーン（以下、「GoToトラベル」という）
※特に10月に東京発着が含まれて以降

1 宿泊客について

(1) 施設形態別

全ての形態で大きく減少した。旅館・ホテルは、2,523千人（前年比68.3% 1,169千人の減）、寮・保養所は228千人（前年比41.9% 317千人の減）、その他の施設（民宿・国民宿舎・ユースホステル等、ペンション、キャンプ場・コテージ）は、37千人（前年比63.2% 22千人の減）であった。

〔内訳〕

全ての項目で前年を下回った。外国人観光客は、自国の渡航制限や日本への入国制限等の措置がなされたこと、また国内では修学旅行の中止が相次いだことで、それぞれ大きく減少した。

- ・一般客：2,747千人（前年比74.5% 939千人の減）
- ・外国人観光客：40千人（前年比6.9% 536千人の減）
- ・修学旅行客：2千人（前年比4.5% 33千人の減）

(2) 月別

1月は前年10月の台風の余波から前年同月と比べ減少。2月以降は新型コロナウイルス感染症の影響で大きく減少した。特に緊急事態宣言が発出された4月・5月については、前年と比べ約10%にまで落ち込んだ。

5月下旬に緊急事態宣言が明け、翌6月からは回復傾向となった。特にGoToトラベルに東京発着が含まれて以降の10月・11月には、前年を上回るほどの賑わいがみられた。

2 日帰り客について

日帰り客についても、宿泊客と同様に大きく減少した。

月別では、緊急事態宣言中に多くの観光施設が休業していた4月・5月は、前年比でひと桁にまで落ち込み、宿泊客以上の減少幅となった。一方、すすき草原や紅葉が見頃を迎える11月には、前年比で約160%と、宿泊客以上の上昇幅となった。

3 月別入込み状況について

【1月】

上旬は休日の日並びも良く、箱根神社への初詣や箱根駅伝の応援で賑わいが見られた。しかし前年の台風の影響が残っていたこともあり、月を通しては前年より減となった。

外国人観光客は、中国で確認された新型コロナウイルス感染症が広がりを見せたことから、月末には東アジア圏からの観光客の姿があきらかに少なくなった。

【2月】

月を通して好天に恵まれたものの、新型コロナウイルス感染症が世界的な広がりを見せ始めたことから、重症化が懸念されたシニア層を中心に、宿泊施設のキャンセルが発生する等、国内観光客についても旅行を自粛する傾向が多くみられるようになった。

また、外国人観光客は、渡航警戒レベルを引き上げる国が出てきたことや、訪日旅行を控える動き等の影響から、町内で姿を見ることが珍しいほどであった。

【3月】

前月以降、日本国内においても新型コロナウイルス感染症が拡大し始め、人が多いところは敬遠される傾向に拍車がかかり、特にシニア層を中心に国内観光客は大きく減少した。若者については、学校の休校措置等による早めの春休み期間となったことや、大型テーマパークの休園等により卒業旅行等の行先変更があったからか、姿が多くみられた。

外国人観光客は、各国で渡航自粛要請等が発表されたことや、日本でも検疫強化や査証の無効化の措置が取られたこと等が影響し、ほとんど目にすることはなくなった。

【4月・5月】

緊急事態宣言が発出され、政府から不要不急の外出自粛要請がなされたことや、都道府県知事からの休業要請等により、日本中で観光客の姿が消え、本町からも観光客の姿が無くなった。

【6月】

前月下旬に緊急事態宣言が解除されたものの、中旬まで県をまたぐ移動は慎重に行うよう政府から示されており、宣言期間中と比べるとまだ人出は見られたが、例年からみると寂しい状況であった。その後、県をまたぐ移動が解禁されてからは、長い自粛期間の反動からか、やや賑わいが見られる日もあった。

【7月】

同月中に明けない異例の長い梅雨や、学生の夏休みが8月開始になるということもあったが、富士屋ホテルのグランドオープンや、箱根登山鉄道の箱根湯本～強羅

間が運転を再開する等、明るいニュースも伝えられた。

下旬には、国の GoTo トラベルも開始され、宿泊事業者からは早々に、GoTo トラベルを利用して来訪した観光客が目立ち始めたという声があり、徐々に日常を取り戻しつつあるように思われた。

町でも 20 日に販売開始した『箱いこクーポン』が即日完売する等、旅行への意欲の高まりが感じられた。

【8月・9月】

GoTo トラベルやお盆休み・夏休みといった長期休暇等が相まって、賑わいが戻ってきた印象が感じられた。

町への来訪手段としては、新型コロナウイルス感染症を警戒し、自家用車・レンタカーでの来訪が目立ち、湯本付近や大涌谷周辺では長い渋滞も発生した。一方、バスツアー等を利用しての団体客はほぼ見られなかった。

【10月・11月】

GoTo トラベルに東京発着の旅行も含まれたことや、かながわ県民割も開始されたこと等により、台風の影響を受けた前年はもとより、例年と比べても遜色ないほどの賑わいが見られ、宿泊施設からは、例年以上の売り上げを記録したとの声も聞かれた。

また、休日のみならず平日でも、湯本付近や大涌谷周辺で渋滞が発生した。

【12月】

外国人やツアーでの団体客がほぼ見られない中ではあったが、GoTo トラベル等に支えられ、下旬まで賑わいが感じられた。しかし、新型コロナウイルス感染症が再拡大したことから、月末に GoTo トラベルが停止され、翌年に影を落とすものとなった。

※ 最大入込月について

最大の入込があったのは11月であり、次いで8月であった。また例年は観光客が少ない9月・10月も GoTo トラベルの効果で多くの観光客が見られた。

4 まとめ

令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、特に4月・5月の緊急事態宣言の実施期間中には、観光客が消えたかと思うほど町全体が静まり返る状況となった。

その後、GoTo トラベル等に支えられたものの、観光客総数としては前年を33.7%下回り、世界的なウイルスの感染拡大の恐ろしさを感じた一年であった。

現在、各国でワクチンの接種が行われているが、外国人観光客の来訪は当面の間見込めないものと想定される。

また、新型コロナウイルスへの感染を警戒し、公共交通機関ではなく乗用車やレンタカーを利用した、少人数かつ近隣からの来訪が多く感じられるため、今後しばらくはこのような旅行形態の傾向が強まるものと考えられる。

令和2年 月別入込観光客数一覧

(単位:人)

施設区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	対前年比
旅館・ホテル	270,663	241,251	233,199	40,676	38,218	96,984	165,305	299,820	243,927	293,948	333,027	266,140	2,523,158	68.3%
(内数:一般客)	248,084	232,684	229,541	40,381	38,044	96,768	164,842	299,308	243,257	292,690	332,063	265,602	2,483,264	80.3%
(内数:外国人客)	22,549	8,532	3,601	295	174	216	463	512	419	457	577	525	38,320	6.8%
(内数:修学旅行者)	30	35	57	0	0	0	0	0	251	801	387	13	1,574	4.6%
民宿・国民宿舎 ユースホステル等	1,029	724	734	258	280	360	515	567	576	473	914	638	7,068	39.9%
(内数:外国人客)	356	171	204	14	0	20	20	48	26	24	104	115	1,102	13.7%
(内数:修学旅行者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
ペンション	341	251	146	10	36	64	146	184	175	185	376	215	2,129	74.9%
(内数:外国人客)	2	0	0	0	0	2	3	6	2	0	10	2	27	10.5%
(内数:修学旅行者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
キャンプ場・コテージ	1,358	1,492	2,585	853	201	1,530	2,445	7,604	3,293	2,462	2,780	1,284	27,887	73.1%
(内数:外国人客)	69	60	4	18	0	71	74	45	38	25	135	50	589	83.0%
(内数:修学旅行者)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
寮・保養所	28,684	22,413	25,804	3,865	1,859	9,264	17,701	30,745	20,589	21,287	25,525	20,728	228,464	41.9%
宿泊客計	302,075	266,131	262,468	45,662	40,594	108,202	186,112	338,920	268,560	318,355	362,622	289,005	2,788,706	64.9%
(内数:外国人客)	22,976	8,763	3,809	327	174	309	560	611	485	506	826	692	40,038	6.9%
(内数:修学旅行者)	30	35	57	0	0	0	0	0	251	801	387	13	1,574	4.5%
日帰客	890,097	850,972	880,319	117,375	88,031	469,505	665,127	1,320,474	1,066,161	1,085,723	1,506,319	841,191	9,781,294	66.7%
観光客総数	1,192,172	1,117,103	1,142,787	163,037	128,625	577,707	851,239	1,659,394	1,334,721	1,404,078	1,868,941	1,130,196	12,570,000	66.3%

過去10年間の観光客の推移

(1) 宿泊客数			平成22年	4,646,053
年	宿泊客数(人)	対前年比	対H22年比	対前年増減比(人)
H23	4,280,639	92.1%	92.1%	△ 365,414
H24	4,631,951	108.2%	99.7%	351,312
H25	4,716,936	101.8%	101.5%	84,985
H26	4,606,751	97.7%	99.2%	△ 110,185
H27	3,665,231	79.6%	78.9%	△ 941,520
H28	4,338,824	118.4%	93.4%	673,593
H29	4,693,513	108.2%	101.0%	354,689
H30	4,525,879	96.4%	97.4%	△ 167,634
R1	4,296,727	94.9%	92.5%	△ 229,152
R2	2,788,706	64.9%	60.0%	△ 1,508,021

(2) 日帰客数			平成22年	15,389,947
年	日帰客数(人)	対前年比	対H22年比	対前年増減比(人)
H23	13,390,361	87.0%	87.0%	△ 1,999,586
H24	14,806,049	110.6%	96.2%	1,415,688
H25	16,140,064	109.0%	104.9%	1,334,015
H26	16,583,249	102.7%	107.8%	443,185
H27	13,710,769	82.7%	89.1%	△ 2,872,480
H28	15,226,176	111.1%	98.9%	1,515,407
H29	16,826,487	110.5%	109.3%	1,600,311
H30	16,734,121	99.5%	108.7%	△ 92,366
R1	14,663,273	87.6%	95.3%	△ 2,070,848
R2	9,781,294	66.7%	63.6%	△ 4,881,979

(3) 観光客総数			平成22年	20,036,000
年	観光客総数(人)	対前年比	対H22年比	対前年増減比(人)
H23	17,671,000	88.2%	88.2%	△ 2,365,000
H24	19,438,000	110.0%	97.0%	1,767,000
H25	20,857,000	107.3%	104.1%	1,419,000
H26	21,190,000	101.6%	105.8%	333,000
H27	17,376,000	82.0%	86.7%	△ 3,814,000
H28	19,565,000	112.6%	97.6%	2,189,000
H29	21,520,000	110.0%	107.4%	1,955,000
H30	21,260,000	98.8%	106.1%	△ 260,000
R1	18,960,000	89.2%	94.6%	△ 2,300,000
R2	12,570,000	66.3%	62.7%	△ 6,390,000